

躍

いきいき狭山人
びと



子ども達の持つ無限に広がる感受性を、大きく育てていきたい

確かな感性と表現力で 狭山の未来を担う子ども達に かけがえのない夢をプレゼントしたい

「絵本のページをめくる時に幼児が受ける感動は、テレビのアニメなどでは絶対に経験できない、何ものにも代えることのできない絵本作家だけにできる、子ども達への『贈り物』だと思います。子ども達は、絵本の中に無条件で入り

込み、主人公になりきって、空を飛ぶことも、雲をつかむことも自由にできます。絵本を描くことは、子どもが成長する上で、ほとんど『一瞬』とも思える時期に、かけがえのない『贈り物』を届けられる素晴らしい仕事だと思います」
このように熱く語る、水富在住のこじまさくらさん(日本児童出版美術家協会所属)は、学校を卒業して、当初はイラスト関係の会社に勤めました。一大転機は会社退職後、もう一度絵画の勉強をするために入った学校で、絵本のカリキュラムの先生が参考に見せてくれた数々の絵本でした。「私が、絵本作家になろうと思ったのはこの時でした」。これまでに四冊の絵本を出版し、自著を市の図書館に寄贈しています。

こじまさんは、もともと小さいときから絵本が大好きな女の子でした。1歳ぐらいのとき、お母さんに絵本を読んでもらったことを今でも良く覚えているそうです。
絵本作家になることを決意した後には、あらゆる絵本作家の本を見て、自分の創作スタイルを確立することに専念しました。「私の絵の特徴は、基本的に色使いにあると思っています。幼児向けの絵本の場合、原色による表現が多いのですが、子ども達には小さいころから、深い美しい色たちに出会い、そこからたくさんのおもしろさを感じてほしいと思っています。ですから、私は原色に限らず、さまざまな色を使うよう心掛けています」。

こじまさんの創作活動にとって、もう一つ重要なのが中央図書館でボランティアで行っている読み聞かせ会です。「子ども達は、感情表現がストレートで、目をキラキラ輝かせて、一生懸命聞いてくれます。そんな姿を見るとうれしくて、次の制作意欲がわいてきます」。作家志望の人の中には、絵本作家になるための登竜門（しりょうもん）のようなコンクールでの受賞を目指している人もいますが、こじまさんは、常に子ども達と接することで得られる新しい発見を大切にしています。
そこから得られる貴重な経験から、自分にしか描けない、子どもたちを夢中にさせる『贈り物』をたくさんプレゼントできる作家になることが最大の目標です。



読み聞かせは楽しいひととき

絵本作家

こじまさくらさん

市民みなさんの声

オピニオン

多くの人々の参加で築く 子ども達の健やかな成長



宮野 勇さん
(北入曽在住)

私は平成7年度から入間地区の青少年育成活動にかかわっています。子ども達の健やかな成長の確保は、学校とPTA活動だけではどうしても難しいのが現実です。地域の人々が積極的にかかわることが非常に重要だと思います。たとえば、各学校にある「おやじの会」はさまざまなイベントを企画

していますが、それらに参加した子ども達が瞳を輝かせて夢中に遊んでいる姿を見ていると、私たちの活動の大切さを感じます。

私たちの活動で最大のイベントは、夏休みに行うサマーキャンプです。サマーキャンプでは多数の小学校の子ども達がキャンプファイヤーやゲームを一緒に行うことで、ふだんあまり接触のない他の学校の子供達と知り合う絶好の機会です。そこで知り合った子ども達が、中学校で一緒になり、改めて友だちになることもあります。また、一人ひとりが役割分担を果たすことで、責任感を養うこともできます。私たち大人の役割は、子ども達と直接向き合うというより、子ども達が横道にそれないように見守ることだと考えています。もっと多くの人たちに、この活動に参加していただきたいと思っています。

市の考え方

貴重なご意見ありがとうございます。

ご意見のとおり青少年の健全育成は、行政だけでなく、家庭、学校、地域の連携によって図られるものです。青少年の健全育成は、市民全体の願いであり、家庭、学校、地域、行政が一体となって、「見守り・育てる」活動を推進していくことが必要です。市民一人ひとりが、自覚と責任を持って青少年の健全育成にかかわっていただきたいと考えています。

担当 自治振興課

皆さんの「声」をお待ちしています。
お寄せいただく際は、住所、氏名、電話番号をご記入ください。☎2954 6262(代)
✉koho@city.sayama.saitama.jp

活動のモットーは、まず声を出して作品を読むこと。そして、先生の豊富な話題をもとに、古典を通して、現代社会が忘れがちな大切なことや、かつての日本人が持っていた品格をもつ一度見直すことです。人生はいつでも勉強。仲間とともにこれからも末永く活動していくことが、私たちの貴重な財産だと思っています。

問合せ 杉山千代さんへ
2956 0951

私の宝物...

かっぱれは元気の源



井戸昌子さん
(中央在住)

東京から移り住んで6年。4年前には主人が病気で倒れ、友だちも知人もなく不安で心が落ち込む毎日でした。そんな時、広報紙の募集を見て始めたのが、「梅后流江戸芸かっぱれ寺子屋」でした。仲間と一緒に踊っている



踊りにかかせない
ちょうちん

るとみんな元気になれます。今では、療養中の主人にも、かっぱれで培った私の元気が一番のお土産になっています。かっぱれは、私と主人の活力であり、いつも心の支えになってくれる大切な宝物です。

次回は入間川在住の友人を紹介します。

Hello ハロー 仲間たち

Vol.312



みんなで一緒に古典を読むと新しい世界が開けます

古典を読む会

私たちの会は、昭和52年に公民館事業から発展してできたもので、入間公民館で30年以上にわたり活動を続けています。現在、会員は23名で、講師の先生が発足当時から変わらないので、会員のまとまりがよいのが自慢です。教材のテーマに合わせた野外学習も年に数回実施していて、先生と会員同士で小旅行に行ったり、多くを学びながら親睦を深めています。

今読んでいるのは、今昔物語で、すでに3年が経とうとしていますが、毎回読み進めることに、多くの発見があり、あつという間に時間が過ぎてしまいます。